

資料8 説教 あと一步でキリスト者

「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている」。

(使徒の働き26章28節)

ここまで来た人々は多く存在しています。キリスト教がこの世に存在するようになって以来、「あと一步でキリスト者になっていた」人々が、いかなる時代・国にも多く存在していました。しかし神の前には、ここまでだけでは何にもならないことがわかっていますので、私たちが以下のことを考えることはきわめて重要です。

第一に、あと一步でとはどのような状態を意味するか

第二に、全面的にクリスチャンとなるとは、どのような状態を意味するか

1 さて、第一に、「あと一步でキリスト者」という状態には異教徒の正直さが含まれています。私が思いますのに、だれひとりこのことについて何の疑問も持たないでしょう。特に異教徒の正直さの意味するところは、彼らの哲学者によって薦められているばかりか、ふつうの異教徒が相互に期待しているものであり、実際に彼らの多くがそれを実行しているものです。異邦人の道德規則によれば、不正を行ってはならず、強奪であれ、盗みであれ、隣人の物を取ってはならず、貧しい人々を虐げてはならず、いかなる人からも搾取してはならず、どのような商売に携わっていても、ごまかしたり、だましたりしてはならず、だれからもその権利を欺き取ってはならず、もし可能であれば、だれからも借りを作ってはならないのです。

2 さらに、ふつうの異教徒は、公正とともに真実さにある程度の配慮がなされるべきであると認めています。従って、彼らは、嘘の誓いを神の名を用いて誓う人や、隣人を中傷する人、いかなる人であっても偽って訴える人を罪に定めました。たしかに彼らはいかなる種類の偽り者であっても、意識的であるならば、彼らを少しも善良であるとは評価せず、彼らを人類の恥、社会の疫病と考えたのでした。

3 さらに、異教徒であっても、正直な人々は、互いに一種の愛と助けを期待しています。どんな人に対しても偏見を持たず、与えることのできるいかなる助けも期待していました。そして彼らは、この助けの手を、大した代価や労力も払わずにできる人道的な立場からの小さいつとめから、さらに進んで、もし余分の食物があれば飢えた人々を養い、自分たちの余った衣服で裸の人々に着せ、一般的に言えば、自分たちの必要としていない物をもって隣人の必要を満たすところまで、その手を伸ばしたのです。ここまで（それを最低に評価しても）異教徒の正直さは届いています。これが、「あと一步でキリスト者」という表現に意味されている最初のことです。

4 「あと一步でキリスト者」である第二の意味は、敬虔、すなわち、キリストの福音に命じられている敬虔の形を持っていること、本当のクリスチャンの「外見」を持っていることです。従って、「あと一步でキリスト者」は福音が禁じていることは何ひとつ行いま

せん。神の名をみだりに唱えません。彼は祝福し、のろうことをしません。決して誓うことをせず、その言葉は「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」です。彼は主の目をけがすことをせず、町囲みの中にいる在留異邦人によってけがされることを許しもしません。すべての事実上の姦淫や、淫行や、不潔を避けるだけでなく、直接的であれ、間接的であれ、そのような方向に傾くあらゆる言葉や状況を避けます。さらに、彼はあらゆるむだな言葉を避け、すべての非難や陰口やうわさ話や悪口から遠ざかり、すべての「愚かな話や下品な冗談」（エペ5章4節）（これは異邦人の道德家の記述によれば一種の品德でさえあるのです）を避けます。要するに、「人の徳を養うのに役立つ」たないすべての行状から遠ざかり、その結果、「贖いの日のために証印を押して」くださった「聖霊を悲しませ」（エペ4章29節）に至ることになります。

5 彼は「放蕩」をもたらす「酒」からも遠ざかり、遊興や大食も避けます。すべての争いや戦いが自分のうちにある限り、それを避け、すべての人と平和に生きるよう絶えず努めます。もし悪を被っても、復讐をしたり、悪をもって悪に報いることをしません。隣人の欠点や弱点をののしったり、口論したり、あざけったりすることをしません。故意にいかなる人にも悪を行なったり、傷つけたり、悲しませたりすることをしません。むしろ、すべてのことにおいて、「人があなたのして欲しくないことをあなたにしたとしても、それをあなたは他人にしてはならない」（マタ7章12節参）という明白な基準に従って行動し、語ります。

6 また彼は良いことをするにあたって、手間や労力のかからない程度の親切に限らず、多くの人々の益を求めて労し、苦しみます。それはあらゆる手段をつくして幾人かの人を助けるためです。

労力や苦痛の伴うことがあっても、それが友のためであれ、敵のためであれ、悪人のためであれ、善人のためであれ、彼はその「手もとにあるなすべきことはみな」（伝道9章10節）力をつくして行います。いかなることであれ、「勤勉で怠らず」（ロマ12章11節）、「機会のあるたびに、すべての人に対して」、その肉体に対してと同様にたましいに対しても、あらゆる種類の「善を行ない」（ガラ6章10節）ます。悪人を譴責し、無知な人々を教え、動揺する人々を堅く立たせ、善良な人々を励まし、苦しんでいる人々を慰めます。眠っている人々を目覚めさせ、すでに神によって覚醒されている人々を彼らが洗ってきよくされるために、罪と汚れのために開かれた泉へと導き、信仰によって救われている人々には、すべてのことについてキリストの福音を飾るべく励ますように努めます。

7 敬虔の形を持っている人は、恵みの手段を、しかもそのすべてをあらゆる機会に実行しています。絶えず神の家を訪れます。ある人々は、金や高価な飾りで着飾ったり、けばけばしい空しい服装で飾り立てたりして、いと高き方のみもとに集いますが、彼らはそうではありません。そういう人たちは、互いに対する不適切な礼儀や折にかなわない派手なふるまいによって、敬虔の力だけでなく、その形さえも否認してしまっているのです。願

わくは私たちの中で、この同じ断罪を受ける者がひとりもありませんように。主の家に来て、あたりを見回したり、気のない、軽はずみな無関心のしるしに満ちている人々がありませんように。時には自分たちが始めようとしている事業に祝福があるよう、神に祈りをささげているように見えはしますが、こうした人々は神の恐れに満ちた集会の間、眠っているか、ぞんざいな姿勢で気楽にしているような人々です。また、神が眠っておられるかのように考え何も仕事がないかのように、おしゃべりをしたり、きよろきよろしたりする人々です。こうした人々が、私たちの間には一人もいることがありませんように。またこうした人々が、果たして敬虔の形を持っているかどうかというレベルで論じられることもありませんように。そんなことは論外です。敬虔の形だけでも持っている人なら、厳粛な集会のいかなる部分もまじめさと注意深さをもって守るものです。特に、主の聖餐のテーブルに近づくときは、軽々しい、無思慮なふるまいでなく、ただ「神さま。こんな罪人の私をあわれんでください」（ルカ18章13節）と告白しつつ遜った態度、身振り、ふるまいで近づくのです。

8 もしこれに加えて、家族の長たる者によって家庭の祈りが絶えず行なわれ、神に対して個人的に物語るために時間が聖別され、日ごとのふるまいがまじめになされるなら、この外面的な宗教を規律正しく行う人は、敬虔の形を持っていると言えましょう。「あと一步でキリスト者」であるためにもう一つのことが必要ですが、それは誠実です。

9 誠実の意味は、外側の行動が生じるための、宗教のまことの内面的な原理です。もしこれがなかったら、異教徒の正直さのレベルにも届いていません。それは異教徒のエピキユロス派のある詩人の要求にも答えることはできません。この哀れな男は、まじめなくだりで次のように述べています。

善人は徳を愛するがゆえに罪を避け

悪人は刑罰を恐れるがゆえに罪を避ける

(ホラティウス、Epistles 1.xxvi.52-53)

もし人が刑罰を避けたいがために、義を行なうことから遠ざかっているとすれば、なんじは木にかけられることはない(同上、48)

とこの詩人は述べています。そこであなたは「自分の報いを受け取っているのです」(マタ6章2節)。しかし、彼はこのように無害な人間であっても善良な異教徒と認めないでしょう。とすれば、もしだれかが同じ動機から(すなわち、刑罰をまぬかれるため、友や利益や名声を失いたくないために)悪を行うことから遠ざかるだけでなく、多くの善を行おうとするならばそうです、恵みの手段を用いて—この人が「あと一步でキリスト者」であるというのは適切ではないでしょう。もし彼が心の中に優る原理を持っていないなら、彼は全くの偽善者にしか過ぎないのです。

10 従って、「あと一步でキリスト者」であるには、誠実が必然的に含まれてきます。

すなわち、神に仕えようとする真実な意図、神のみこころを行おうとする心からの願望です。すべてのこと、すなわち、すべての行状、すべての行動、すべてのなすこと、しないことにおいて、神を喜ばせようとの誠実な目的を持っているということが、当然含まれています。もしだれかが「あと一步でキリスト者」でありたいと思うなら、この意図がその人の生涯全体を貫かなければなりません。これこそが、彼が善を行い、悪から遠ざかり、神のいましめを守る重要な原理なのです。

11 しかしここで尋ねられることは、生きている人間がここまで届きながら、ただの「あと一步でキリスト者」でとどまっていられるか、ということです。「全面的なキリスト者」となるためには、これ以上、何が要求されているのでしょうか。私は答えます、第一に、ここまで届きながら、なお「あと一步でキリスト者」であることは可能なことです。それを神のことばからだけでなく、経験という確かな証しからも知ることができます。

12 兄弟たちよ、このことに関する「私のあなたがたに対する信頼は大きい」（Ⅲコリ7章4節）のです。もし私があなたのためにまた福音のために、自分の愚かさを屋上から宣言しても「どうか、赦してください」（Ⅱコリ12章13節。私が他人のこのように、自分自身のことを自由に話したとしても、どうぞ許してください。私はあなたがたが高められるために、喜んで低くされ、主の栄光のためにより喜んで卑しくされます。

13 この地にいる多くの人々が証しできるように、私は長年にわたってここまでは届いていました。すなわち、すべての悪から遠ざかり、良心の責めがないように努め、時を購い、すべての人々になし得るかぎりの善を行なうあらゆる機会をとらえ、絶えずまた注意深く、すべての公的および私的な恵みの手段を守ってきました。いつでも、どこでも、堅実でまじめなふるまいをするように努めてきました。そして私とその前に立っている神は、私がこのすべてを誠実に行ってきたことを記録しておられます。私は神に仕えようとの真実な意図を持ち、すべてのことを通して神のみこころを行い、私を「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得」（Ⅰテモ6章12節）するように召してくださった方を喜ばせようとの心からの願いを持ってきました。しかし私自身の良心が聖霊によって証しすることは、この間中、私は「あと一步でキリスト者」に過ぎなかったということです。

二

もし「『全面的なクリスチャン』になるためには、これ以上、何を求められているのですか」と問われるなら、私は次のように答えます。

1 第一に、神への愛です。神のみことばは、「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」（マコ12章30節）と述べています。心全体を占領し、すべての愛情を満たし、たましいの全能力に充満し、その全機能の極限までを働かせるような神に対する愛です。このように神である主を愛している人は、その霊が彼の「救い主なる神を喜びたてる」（ルカ1章47節）人です。その人は「主」であり、彼のすべてである方を「喜びとし」（詩篇1篇2節）、この方に「すべての事につ

いて、感謝し」（イテサ5章18節）ます。彼は「主の御名、主の呼び名を慕います」（イザ26章8節参）。その心は常に「天では、あなたのほかに、だれを持つことができましよう。地上では、あなたのほかに私はだれをも望みません」（詩篇73篇25節）と叫びます。たしかに、彼は神のほかに何を慕うことができましようか。世ですか。世の物ですか。「世界は彼に対して十字架につけられ、彼も世界に対して十字架につけられた」（ガラ6章14節）のです。彼は肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢に対して十字架につけられています。そうです、彼はあらゆる種類の誇りに対して死んでいます。「愛は自慢せず」

（Iコリ3章4節）、愛のうちにいる人は「神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられ」（Iヨハ3章24節）るので、自分の眼には無以下の者だからです。

2 第二に、「全面的なキリスト者」には、隣人愛が含まれています。主は次のように述べられました、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」（マタ22章39節）。もし、「自分の隣人とはだれか」と問われるなら、「世にあるすべての人、すべての肉なるもののいのちの神』（民数27章16節）のすべての子です」と答えます。隣人から、私たちの敵や神に敵対する者や彼らのたましいを除外してはなりません。すべてのクリスチャンは彼らを自分自身のように、しかも「キリストが私たちを愛」（エペ5章2節参）されたように、愛するのです。この愛がどのようなものであるかを十分に知ろうとする人は、パウロの愛の教えを考えることができます。それは「寛容であり、親切です。また人をねたみません。それは無思慮に、性急に、判断しません。それは自慢せず」（Iコリ13章4節参）、彼を、愛する者、最も小さい者、すべての人のしもべとします。愛は「礼儀に反することをせず、ふさわしくない振る舞いをせず」（Iコリ22章5節参）、「すべての人に、すべてのものとなります」（Iコリ9章22節。愛は「自分の利益を求めず」、他の人々の益、すなわち、彼らが救われることを求めます。愛は「怒り」ません。それは愛に欠けている人の持つ怒りを追いやります。それは「人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます」（Iコリ13章5～7節）。

3 前述した「全きクリスチャン」の意味を考えようとするとき、それと実際には切り離すことはできませんが、切り離して考えなければならない、もう一つのことがあります。それはすべての根底にあるもの、すなわち、信仰です。神のこば全体を通して、このことについて非常にすばらしいことが語られています。愛された弟子は、「信じる者はだれでも、神によって生まれたのです」（Iヨハ5章1節）と述べています。「この方を受け入れた人々、すなわちその名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」（ヨハ1章12節）のです。「私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です」（Iヨハ5章4節）。そうです、主ご自身は宣言しておられます、「御子を信じる者は永遠のいのちを持ち」（ヨハ3章36節）、「さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」（ヨハ5章24節）と。

4 いかなる人も自分のたましいを欺いてはなりません。良く心に留めておかなければな

らないことは、「悔い改め」や愛やすべての善行に「ふさわしい実を」（マタ3章8節）結ばない信仰は、ここで語られているような「正しい生きた信仰」ではなく、「死んだ信仰、悪霊どもの信仰です」。なぜならば、悪霊どももキリストが処女から生まれ、あらゆる種類の奇蹟を行ない、自分自身が神であることを宣言されたこと、私たちを永遠の死から贖うために最も苦痛に満ちた死を受けられたこと、三日目によみがえられたこと、天に昇り父なる神の右に座しておられること、この世の終わりに生きている人々と死んでいる人々を審くために再び来られること、を信じているからです。悪霊どもはこれらの信仰箇条を信じ、旧・新約聖書に書かれているすべてを信じています。これらのすべてを信じていても、なお、彼らは悪霊どもに過ぎません。彼らはまことのキリスト教信仰を欠いていますから、のろわれるべき状態に依然として留まっているのです。

5 「正真正銘のキリスト教信仰は」（英国国教会の言葉で言えば）「聖書と信仰箇条が真実であると信じるだけでなく、キリストによって永遠ののろいから救われるというたしかかな信頼と確信を持つこと」です。それは「キリストの功績によって、自分の罪がいま赦されており、神の恵みへと和解させられたという、たしかかな信頼と確信」であり、その結果、「神の戒めを守ろうとする愛の心が伴う」のです。

6 さて、うちに宿っている神の力によって、心を高慢、怒り、欲望から潔め、「すべての悪からきよめ」（Ⅰヨハ9）、「いっさいの霊肉の汚れからきよめる」（Ⅱコリ7:1）信仰、心を神と全人類に対する愛—それは死よりも強いのですが—神のわざを行うことを愛する愛で満ちた信仰を持っているすべての人、すべての人々のために財を費やし、また自分自身を注ぎ出すことを誇りとし、キリストのそしり・すべての人々からの嘲り・侮り・憎しみだけでなく、神のみはかりによって許されている限り、人々や悪霊が与えようとしている悪意を喜びをもって耐え忍ぶ信仰を持っているすべての人、「愛によって働く」（ガラ5章6節）この信仰を持っているすべての人は、あと一歩でキリスト者であるというよりも、全面的なキリスト者であるのです。

7 しかしこれらのことの生きた証人となるのはだれでしょうか。「よみと滅びの淵とは主の前にある。人の子らの心はなおさらのこと」（箴言15章11節）という神のみ前で、兄弟たちよ、私はあなたがたに勧めます、あなたがたひとりひとりが自分の心に「果たして、私は全面的なクリスチャンの数の中に入っているだろうか。異邦人の正直な規定が要求するほどに、今まで公正と憐れみと真実を実行してきただろうか。もしそうとしても、クリスチャンの外見を持っているだけであろうか。敬虔の形を持っているだけであろうか。悪から遠ざかり、聖書に禁じられているすべてのものから遠ざかっているだろうか。私の手もとにあるなすべきことはみな、自分の力でしようとしているだろうか（伝道9章10節）私はあらゆる機会に神のすべての定めをまじめに守っているだろうか。そしてこのすべてを、神に喜んでいただくことの真実な意図と願望をもって行っているであろうか」と問いかけることをお勧めします。

8 あなたがたの多くは、決してここまで達していないと自覚しているのではないでしょ

うか。「あと一步でキリスト者」という状態にも達していないのではないのでしょうか。異邦人の正直さの標準にまで達していないのではないのでしょうか。少なくとも、キリスト教の敬虔の形にすら達していないのではないのでしょうか。ましてや、神があなたがたの中に、すべてのことにおいて神に喜んでいただくとの真実な意図、あなたがたの中の誠実さを見ておられないのではないのでしょうか。すべての言葉と行い、あなたがたの事業、学び、娯楽が、神の栄光のためにと意図してなされていることとは、ほど違いではありませんか。あなたがたのなすすべてのことが「主イエスの名によってなし」（コロ3章17節）「キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえ」（1ペテ2章5節）とならなければならないということを、考えもせず、願望せずにしたものではありません。

9 しかしもしあなたがたがそれを意図し、願望していたとしても、良い意図と願望があなたをクリスチャンとするのでしょうか。決してそうではありません。それらが正しい結果をもたらすまでは、そうではありません。ある人は「地獄は善良な意図で敷きつめられている」と言いました。すべてのものにまさって大切な質問がなお残ります。神の愛はあなたの心に注がれていますか。あなたは「私の神、私のすべて」と叫ぶことができますか。あなたは神以外のものを願望しませんか。あなたは神にあって幸福ですか。神はあなたの養、あなたの喜び、あなたの喜びの冠ですか。「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです」（ヨハ4章21節）という戒めはあなたの心に記されていますか。あなたの隣人を自分のように愛していますか。すべての人、自分の敵、神の敵すらも自分自身のたましいのように愛していますか。しかもキリストがあなたを愛されたようにですか。またキリストがあなたを愛し、あなたのためにご自分を与えてくださったと信じていますか。主の血潮を信じていますか。神の小羊があなたの罪を取り除いて、石が海の深みに投げられるように、捨ててくださったと信じていますか。主があなたに対する証書を消し去り、それを除いて、十字架にかけてくださったと信じていますか。あなたは主の血潮によって確かに贖われ、あなたの罪は赦されていますか。主のみ霊があなたの霊とともに、あなたが神の子であると証ししておられますか（ロマ8章16節）。

10 私たちのただ中に今立っておられる主イエス・キリストの父なる神は、もしいかなる人であってもこの信仰とこの愛を持たずに死んだとすれば、決して生まれぬ方が良かったことを知っておられます。ですから、眠っている人よ、目を覚ましなさい。あなたの神を呼び求めなさい。神を見いだすことのできる間に呼び求めなさい。主がその「あらゆる善をあなたの前に通らせ、主の名で、あなたの前に」、「主なる神は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代も保ち、各とそむきと罪を赦す者」と宣言なさるまで、休んじてはなりません（出エ33章19節、34章6、7節）。あなたを上を召してくださる主の栄光に届かないで満足するようなむなしい勧めに心を傾けてはなりません。むしろ「私たちがまだ弱かったとき、不敬虔な者のために死んでくださった」（ロマ5章6節）方に昼も夜も叫び求めなさい。そうすれば、あなたは信じた方を知り、「私の主。私の神」（ヨハ20章28節）と言うに至るでしょう。あなた

が手を天に向かって伸べ、永遠に生きておられる方に対して、「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなを愛することを知っておいでになります」（ヨハ21章17節）と申し上げるに至るまで、「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを」（ルカ18章1節）覚えておかなければなりません。

11 願わくは、私たちすべての者が、あと一步でキリスト者となるまで成長し、そこに留まらず、全面的なキリスト者になることを体験することができますように。それは、イエスによる贖いを通して主の恵みにより無代価に義とされ、イエス・キリストによって神との平和を持つに至ったことを知り、神の栄光を喜んで喜び、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれることです。